



メインエントランスのオブジェと作者の磯崎先生

校内オブジェ

芸術科

磯崎有輔 先生

～INTORTUS～

磯崎先生の作品

本校のメインエントランスを入ると、不思議な形をしたオブジェが飾られています。作品名は『INTORTUS～イントータス～』この作品は、平成30年度の卒業記念品として寄贈されたものです。作者は、昨年度まで本校に勤務していた磯崎有輔先生。今年度は創作活動に専念されるため、残念ながら本校での授業は行っておりませんが、作品に込めた想いをお聞きしてみました。

作品に寄せて

今現在、ぼくは「彫刻の表面とそれ以外との境界線」に興味があり、そこを強調させる為にエッジの部分に蓄光顔料を塗る作品を作っております。実際に光るところは展示場所を完全に暗くしない限り見ることは出来ませんが、その風景を想像して楽しんでいただくこともぼくの狙いの一つでもあります。形に関しては、なるべくミニマル（シンプル）なモノを心がけていますが、このイントータスは、少し複雑な形状になりました。表現過多は時に散漫なイメージを与えてしまう恐れがありますが、この作品はギリギリのところまで留まっています、逆に良かったと今では思っております。

作品名の由来

INTORTUSとはラテン語で「もつれ雲」という意味です。この雲が見られた後は、晴天が続くことが多いとされている

そうです。なんとなく縁起の良い雲ですね。毎日学校の玄関を通り過ぎるたびに、皆様に前向きで明るい気持ちになっていただけたならば、彼（彼女？）も彫刻冥利に尽きると感じているはずです。

寄贈の背景

磯崎先生に依頼したきっかけを、芸術に関心強い中学教頭である高橋英男先生にお聞きしました。

以前も芸術作品を卒業記念品として寄贈することはありましたが、実用的なものを選ぶことも大切ですが、生徒の心に働きかけが出来る良いもの・作品はないかという話になりました。選定にあたり、候補のひとつが「磯崎先生に作品を作っていただく」というものでした。以前、銀座で開かれた彼の個展を訪れ、実物の彫刻作品を目にしました。磯崎先生の創作活動を知っていたからこそ候補に挙げ、最終的に磯崎先生への依頼が決定しました。

取材を終えて

寄贈の背景をお聞きすると、毎日目にする作品の見方が変わってきます。高橋教頭の見聞の広さがあっての選定、磯崎先生の快諾あっての実現。同僚であった美術の先生が実はスゴイ芸術家であったことなど驚きもあります。今後も愛される

作品になると確信できます。ぜひ間近で鑑賞してください。

（磯崎有輔オフィシャルサイト）

<http://isoiso.sakura.ne.jp/profile/index.html>



デケム/Decem (2010～18)



カルキュラス#1～#5/Calculus#1～#5 (2013)



ペタルム/Petalum (2018)

